

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立大谷小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒988-0273
宮城県気仙沼市本吉町三島28
 E-mail : ohya-sho@kesenuma.ed.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 101 名 女子 98 名 合計 199 名
 児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

テーマ	地域を見つめ、調べ、よさを伝え合う児童の育成
-----	------------------------

1 ESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

地域の人々や自然とのふれ合いを通して、課題を見つけ、粘り強く、主体的に追究しながら、生活に生かしたり、自己の生き方を考えることができる児童を育てる。

(2) ESDで育てたい力（資質・能力及び態度）

- ・多面的、総合的に考える力
- ・コミュニケーションを行う力
- ・つながりを尊重する態度
- ・進んで参加する態度

※めざす児童像

学年	地域を見つめる姿	地域を（で）調べる姿	よさを伝え合う姿
低	自分とかかわりのある身近な人や自然などに興味・関心をもつ子ども	事象との出会いから、見付けたり、比べたり、例えたりしながら気付く子ども	身近な人に対し、自分とのかかわりや気付いたことなどを言葉や絵で表す子ども
中	人や自然とのふれ合いを通して、自ら探究したい課題を見付ける子ども	見聞や体験を通して情報を集めたり、整理・分析したり、まとめたりする子ども	調べたことを基に、生活に活かそうと考えたことを筋道立てて発表する子ども
高	地域社会の変化をとらえ、未来に向けて解決すべき課題に気付く子ども	地域の思いや願いを感じながら、広く情報を収集し、課題を解決しようとする子ども	自己の考えの根拠を明らかにしながら多様な方法で発信する子ども

2 ESDのプログラム

(1) 取組の概要

- ・地域の自然、文化、福祉等を視点に、地域を見つめ、調べ、そのよさを伝え合う活動に取り組む。
- ・生活科と総合的な学習の時間を中心に、関連する教科・領域と横断的に取り組む。
- ・地域学習コーディネーター（特別非常勤講師）を介し、地域内外の人材を広く活用する。
- ・主幹教諭（防災主幹）を中心とした防災教育に関するプログラム作りとその実践。

(2) ESDプログラム（実施）

学年	教科	単元名 など
1	生活科	【地域】 がっこうだいすき ・震災後の復旧工事により整備された通学路を歩き、交通安全・防災の視点から観察した。地域の安全ボランティアの方とも交流した。 【地域】 あきのおもちや だいしゅうごう ・身近な自然で集めた葉や木の実を使っておもちやや飾りを作り、大谷幼稚園児と一緒に遊んで交流した。
		【地域】 わたしのまちをたんけんしよう ・身近な地域の方やさまざまな場所に関心を持ち、交通ルールや訪問マナーを守りながら、安全に気を付けて見たり、調べたりした。 【文化】 わたしのまち大すき～平磯虎舞～ ・平磯虎舞保存会の方から、簡単な歴史や太鼓の打ち方などを体験的に学んだ。
3	総合	【地域】 地域の名人に学ぼう ・学区内の「名人（着付け・菓子作り）」の技術や知識を体験的に学んだ。 【福祉】 まちのお年寄りと仲よくなるよう ・疑似体験や見学を基に「あったか交流会」を企画し、高齢者との交流を深めた。
4	総合的な学	【環境】 エコプロジェクト～今、私たちにできること～ ・社会科の学習と関連付けながら、自分たちができるエコ活動を考えて実践した。 【福祉】 障害について考えよう ・キャップハンディ体験を基にして、障害やバリアフリーについて調べ学習を行った。
		【環境】 大谷の環境について考えよう

5	習 の 時 間	・「ふゆみず田んぼ」での体験・観察を基にして、環境と食糧生産について考えた。 【防災】大谷の防災について考えよう ・日常的にできる防災・減災の方法を考え、校内や地域で啓発活動を行った。
6		【地域】探ろうふるさと、考えよう未来の大谷 ・観光、水産業、農業、伝統、自然、動物の視点から大谷地区の特徴を探した。 【地域】大谷から世界へ発信！ ・大谷地区の特徴や良い所を文集や壁新聞にまとめた（国語科との連動）。
全 校	行 事	【防災】避難訓練（授業時、休憩時、下校時、緊急地震速報時、幼稚園・小学校・ 中学校・公民館による地域合同、など） 【地域】稲作体験（田植え・稲刈りなど）※H25は、4～6年が実施

(3) 活動の評価の観点と方法

- ・学習活動や体験活動の中で作成した作品や記録、自己評価や相互評価の記録などを集積した「ポートフォリオ評価」を活用する。
- ・活動をまとめる段階では、保護者やお世話になった方々を招いた発表会を実施し、これまでの学習成果や課題に対する意識の変化を観察・記録し、検証する。

3 平成25年度のESDの実践

(1) 今年度の取組の変更や改善点

- ・避難訓練では、下校時（スクールバスを含む）と緊急地震速報時を取り入れた。
- ・5年生の「大谷の環境について考えよう」では、「ふゆみず田んぼ」に加え、隣接する休耕田と一般農法の水田の観察や滝根川の水生生物調査に取り組んだ。農業改良普及センターへ農薬や水田の生物についての講話を依頼した。
- ・6年生の「探ろうふるさと、考えよう未来の大谷」では、岐阜県海津市の小学校と防災について、テレビ会議や海津市を訪問して意見の交流をした。

(2) 実践の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

- ・下校時避難訓練では、バスの乗務員と連携することができた。課題も見つかった。
- ・5年生の実践では、比較観察を取り入れ、「ふゆみず田んぼ」の効果を顕著にできた。
- ・6年生の実践では、ICTの活用（テレビ会議）が図られ、交流が効果的に行えた。

②児童生徒の変容（資質・能力、態度）の視点から

- ・多様な避難訓練により、一人一人が非難行動を考える防災への意識が高まってきた。
- ・5年生の実践では、環境と食糧生産の2視点からとらえ、思考の深まりが見られた。
- ・6年生の実践では、輪中と比較しながら、自分たちの防災対策を考えることができた。

③教師や保護者、地域住民の意識の変容の視点から

- ・プログラムを見直し、積極的に改善しようという意識が高まってきた。
- ・進んで幼稚園や中学校、関係機関と連携しようという協働の意識が高まってきた。

(3) 次年度に向けた課題

①プログラムの視点から

- ・単元の構成として、課題作りから表現までを2サイクルにし、児童の思考を深めたい。
- ・復旧復興の状況に合わせて、海を活用するプログラムの開発を検討したい。

②推進体制（校内体制や地域との連携）の視点から

- ・学習カードや児童作品等の成果物の作成と、成果物の引継ぎと保存活用を強化したい。
- ・総合的な学習の年間指導計画を「朱書き」での引継ぎから「毎年作成」に変更したい。朱書きの内容も見直す。

③学習環境等の視点から

- ・今年度開設したホームページを活用した情報発信について検討したい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）